

佃島の旧漁師住宅「飯田家住宅」の調査報告から・・・



▲「飯田家住宅」 建物正面



▲表札

▲井戸・生簀

｜開催趣旨｜

佃島（中央区佃一丁目）は、400年前の地割りと風景を残す貴重な地区である。その中にある大正9年に建築されたと伝えられている飯田家住宅は、土間の敷居が外れる、土間に井戸があるといった佃島の旧漁師住宅の形式を色濃く残している。

現在は空き家になっているが、所有者の方の了解を得て、東京理科大学建築学科建築史研究室や芝浦工業大学建築学科地域デザイン研究室が実測調査を行い、また既存研究や資料を読み解き、その歴史的価値を明らかにしつつある。

そこでこのシンポジウムでは、飯田家住宅の調査結果報告とともに、都心に残る佃島の歴史的価値の再確認を行うことを目的とし、今後の伝統的様式の継承・建物再活用に向けた方策についても議論する。

｜開催日｜

2022年12月6日（火） 18：00～20：00（開場：17：45～）

【会場】 オンライン（zoom ウェビナー）

【参加費】 無料（Peatixによる申し込み）

【定員】 100名（申込先着順）

◎申込先 URL <https://chagtokyo20221206.peatix.com>



申込先 QR コード

｜パネリスト｜

- ・主旨説明：志村秀明（CHAG、芝浦工業大学）
- ・基調講演：伊藤裕久（東京理科大学建築学科）「飯田家住宅の実測調査結果」
- ・意見交換：増山一成（中央区教育委員会）
伊藤裕久（前掲）
志村秀明（前掲）※コーディネーター
- ・まとめ：中野恒明（CHAG、アプル総合計画事務所、芝浦工業大学名誉教授）
- ・司会：柿沼整三（CHAG、(有)ZO設計室）